

## 令和5年度 第1回三田市障害福祉審議会

開催の日時	令和5年6月28日（水）10時00分～11時30分
開催の場所	総合福祉保健センター 2階 講座室
欠席者	2名（市川委員、南里委員）
出席した庶務職員の職及び氏名	共生社会部：岸本共生社会部長、鶴福祉共生室長、西脇障害福祉課長、永井障害福祉課係長、萩原障害福祉課係長、尾崎障害福祉課主任、山根障害福祉課主任、西村障害福祉課事務職員 学校教育部：市原教育支援課長
傍聴者の人数	0人
議題	(1) 第5次三田市障害者福祉基本計画の実施状況について (2) 次期計画策定に向けたアンケート調査結果概要について (3) 基礎調査等の結果と今後の課題について
公開・非公開の区分	公開
連絡先	共生社会部 福祉共生室 障害福祉課 電話：079-559-5075 FAX:079-562-1294

### 会議次第

- 1 開会
- 2 報告事項
  - (1) 第5次三田市障害者福祉基本計画の実施状況について
  - (2) 次期計画策定に向けたアンケート調査結果概要について
  - (3) 基礎調査等の結果と今後の課題について
- 3 その他
  - (1) 次期計画策定に向けたスケジュール
- 4 閉会

### 審議経過

#### 1 開会

配布資料の確認等

#### 2 協議・報告事項

(津田会長)

本日はアンケート調査に対する議論がメインとなる。第6次障害者福祉基本計画は令和6年度からとなるため、今年度に策定することとなります。アンケート調査結果等について、第6次計画に反映することを念頭に置きながら意見交換をお願いします。

それでは、(1) 第5次三田市障害者福祉基本計画の実施状況について (2) 次期計画策定に向けたアンケート調査結果概要について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料説明（第5次計画の実施状況、アンケート調査結果概要について）

(津田会長)

報告いただいた第5次計画の実施状況、アンケート調査結果概要について、ご意見・ご質問等ある方はお願いします。

(宮成副会長)

第5次計画の実施状況は、おおむね達成できているという形で評価されていますが、7ページを見ると相談支援専門員が不足しており、特に障害児の待機が生じていることが分かる。この問題を何とかしていかなければいけないと思います。障害分野の相談支援専門員だけでなく、介護や保育分野においても職員不足は深刻な問題となっている。次期計画では福祉人材の確保について触れていただきたい。

(長田委員)

アンケートの調査対象のうち、18歳以上の障害者手帳所持者本人からの回答は約7割。全体では約7割となっていますが、障害別（身体・療育・精神）で見ると割合は異なると思います。障害別（身体・療育・精神）及び年代別のクロス集計のデータはありますか。

(事務局)

クロス集計を抽出することは可能ですので、後日回答いたします。【補足資料】

(平井委員)

障害のあるお子さんや保護者の方の気持ちがとても表れていると思ったのは、9ページの障害のない子と一緒に教育を受けられる環境を望んでいるという回答。一方、障害のある子どもに対する先生の理解が進んでいないという厳しい指摘もあります。現場の先生や支援者は決して怠けているのではなく、大変熱心に頑張っておられている。医療的ケアが必要なお子さんや、発達障害と診断されるお子さんまで、実にいろいろな子どもたちが共生という形で障害のない子どもと同じ場所で育ち、教育を受けられる環境があるからこそ、現場の先生方の苦悩も出てきているのではないかと思います。共生をこれまでどおり、あるいはこれまで以上に進めていくためには、現場での教育や支援にあたっている先生方に一方的に押し付けてしまうのではなく、専門家の力を借りる、地域の人との協力を得るなど、現場任せではないシステムづくりが必要ではないかと感じます。

(山口委員)

特別支援教育に対する保護者の方の理解が深まっているということもあると思いますが、三田市の特別支援学級に在籍する子どもの数は年々増えています。やはり、特別支援学級と

いうところで、その子に合わせた教育が受けられる反面、高い専門性を求められがちです。そこで、職員研修等の際に専門家の派遣が可能になるようなシステムをつくっていくことが大事だと思います。本校も特別支援学校ではありますが、併設型ということで、小学部と中学部がそれぞれ小学校、中学校に併設しています。三田市の共生の教育を大事にする視点を膨らませる形で、インクルーシブ教育のシステムの構築をさらに進めていくというような施策を盛り込んでいただきたいと思います。

(八十川委員)

第5次計画の実施状況の5ページ「基本目標4 社会参加の促進」ですが、障害者の社会参加というのは、スポーツが非常に有効だと思います。自己評価としては「3. スポーツ・文化活動等の展開」がB評価ですが、特にこの3年間は新型コロナにより、あらゆるスポーツや文化活動が厳しく制限される状態が続きました。ですのでB評価というのは甘過ぎると思います。第6次計画においては、スポーツ・文化活動の事業について、より活発な展開となることを期待します。

(津田会長)

先ほどのご意見に関連して、18歳以上のアンケート調査では、問35、問36と問47の辺りがスポーツ・文化活動に関する設問となっています。問35を見ると、実際に参加している人たちと比べて参加したいと思っている人たちが約倍という結果です。つまり、参加したいと思っている人の半数が参加できていないという見方ができると思います。ただ、全体を見ると、社会活動をしたいというニーズがそれほど顕著に上がっていないとも伺えます。全体的に社会参加への希望がとても低い数値であるように思います。2年程前、兵庫県で知的障害者を対象にアンケート調査を実施したところ、自由時間が長いことが分かりました。平日で10時間位、休日では15時間以上の自由時間を持っており、その時間何をしているのかというと、家でゲームをする、テレビや動画を見る、という回答でした。ただ、今後したいものとしては音楽やスポーツという回答も多くありました。それに比べると今回の調査結果では、なぜこれほど数値が低いのかという疑問を持っています。三田市の方たちが例外だとは捉えにくいので、調査の仕方も含め考えていく必要があると思います。他のデータと噛み合わせていくと、実際には社会参加のニーズがあるものの、気持ちの問題も含め十分に表面化されていないという見方をするのが妥当かと思いますので、次期計画については慎重な記述が求められます。

(岡本委員)

今回のアンケート結果を見ますと、新型コロナが相当影響していると思います。一般の家庭も障害のある方がいる家庭もそうですが、特に施設では新型コロナとなると慎重になって

しまい、行事の中止がこの3年間は多くありました。そういう状況下でしたので、この調査結果はある程度評価すべきだと思います。現在はコロナ禍が完全に収まったわけではありませんが、制限が緩和されておりますので先日、障害者スポーツ大会を開催したところ、多くの方に来ていただきました。今後も対策を立てながら地域で活動できればと思います。

(平井委員)

外出していろいろな場に参加することの少なさについて、障害に対する対応や理解の不足から来ているのではないかと思います。障害児のアンケートで「障害や特性があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるか」という設問に「よくある」、「ときどきある」と答えている方が結構おられます。本当はどんどん外に出て参加したいが対応や理解不足により嫌な思いをするのではないかという意識が働いて、外出や参加が億劫になるのではないかと思います。

(津田会長)

大変重要なお指摘をいただきました。関連して、追加資料1を出していただいておりますが、6ページの数値はかなり深刻だと思います。例えば前回の調査と比べて「地域の人と打ち解けられる関係を築きたい」と答えた方が55.7%から35.6%に減っており、これを数字どおり受け取ると大変なことです。全体的に、障害のある方たちが地域との関わりを持つことに対して前向きではない、後ろ向きになりつつあるようなデータになっていますので、どのように変えていくのかということも含め協議が必要かと思います。

それでは、(3)基礎調査等の結果と今後の課題について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料説明(基礎調査等の結果と今後の課題について)

(津田会長)

資料3の右端には第6次障害者福祉基本計画の体系案1～5が示されています。先ほどのアンケートに関する様々なご意見も踏まえ、この表を練り上げていくような議論ができればと思います。ご意見・ご質問等ありましたら、よろしくをお願いします。

(長田委員)

B型事業所での就労者のうち、今は大体4割弱の方が40歳以上ということで、加齢に伴った就労の壁があります。雇用とはまた違う観点で高齢化について考える必要があると思います。リタイアした一般就労の方で福祉作業所での就労を希望している方もおられますが、今の制度では難しく、「就労支援体制の充実」、「多様な働く場の確保」のところに高齢者の受け入れなど、幅広く「働く」という観点を入れていただければと思います。

(津田会長)

分野が雇用・就労ですので、雇用だけではなく、社会参加・社会貢献というような視点から就労について幅広く捉えることが計画を策定するにあたって大事なものになるのではないかと思います。

(平山委員)

副会長からのご意見にありました相談員の数が少ないことにより、障害児の待機が生じているという指摘がありました。これは第6次計画に向けての課題だと思います。この課題に対し、市としてどのような働きかけや対応をされるのか、それを教えてください。

(津田会長)

先ほどのご質問については、あらためて事務局からお答えいただきたいと思います。

→【別紙】

(宮成副会長)

2点ほど、ご検討いただければと思います。

1点目、保健・医療・福祉分野の市民アンケート・団体ヒアリングにおいて、介助者が50～70歳代と高齢化してきているということが書かれています。少子高齢化の影響もありますが、今後、親亡き後をどうしていくか、当事者の暮らしを実現するためにどう地域がサポートしていくのか。この部分に取り組んでいく必要があると思います。介護保険の計画には成年後見制度利用促進が入っていますが、障害のある方の権利も守るところで、それを1つのツールとして促進していくことは大事かと考えます。

2点目、全体的な課題として、「障害に対する理解」が多くあがっています。理解するために交流を深めましょう、環境整備をしていきましょう、機会を創出しましょうと書かれています。それに行き着くために、福祉学習が根底にあると思います。どうしても福祉学習イコール学校で生徒や児童が受けるものというようになりがちですが、今後は地域や企業、学校であればPTAに広めていく。当事者の方とふれ合い、さらには雇用と掛け合うことで、お互いの理解を深めていくことが大事かと思います。特に企業でそういう取り組みをしていただければ、中間的就労のきっかけになる可能性も出てきます。ですので、福祉学習の推進は欠かせないものだと思います。

(津田会長)

大切な視点ですね。療育・教育分野に入っている地域福祉活動の推進の中にも福祉学習をしっかりと位置づける必要があるということだと思います。

(事務局)

お配りしている資料3の体系図ですが、現行計画の基本目標が5つあり、その中で施策の方向性がそれぞれ分かれています。その後ろに重点項目ということで具体的な内容が載っています。次回の審議会では、これに準ずる第6次計画の体系案を提示させていただきますので、それについてのご意見を頂戴したいと思います。例えば、施策の方向性にこんな項目を入れたほうがよいのではないか、この項目はこちらに移すほうが良いのではないかというようなご意見があれば、そうした内容も反映させていただいたうえ、次回の審議会でお示しします。今回の資料にある第6次障害者福祉基本計画の体系(素案)は、あくまで事務局で考えているもので、この方向で進めるわけではございません。皆様のご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

(津田会長)

この体系の枠組み自体をバラバラにすることもありえますので、それも含めてご意見いただければと思います。

最初に副会長が言われていた、支援者の育成のところがどこに入るのかということが気になります。この点については様々な部分で課題になっており、三田市全体でどのように計画していくのかということが重要になってくると思います。学校教育の話も出ていましたが、学校と障害福祉の領域が連携できているのかということも、かなり重要なポイントになります。もちろん学校教育だけでなく、生涯学習やスポーツ・文化活動等も含め、全体として盛り上げていくような仕組みが大事だと思います。

(八十川委員)

障害者と言いましても、身体、知的、精神の障害種別があります。身体であれば肢体と内部、聴覚や視覚等、いろいろな障害があり程度も違います。私は視覚障害者への支援をしたと考え、約10年間、新聞や本を読む対面朗読のボランティアをさせていただきました。長田委員から障害者の高齢化についてのお話がありましたが、80歳や90歳と年齢が高くなるにつれ認知症になる人が多くなります。認知症はコミュニケーションがうまく取れなくなる。そのような症状も非常に重い障害ではないかと思えますし、こうしたことを正しく理解することは本当に難しいと感じています。障害を正しく理解してもらうためにも、スポーツはとても有効だと常々思っています。パラスポーツ、車いすテニスなどのスポーツを介して、障害について正しく知っていただく。家の中に障害者を隠すのではなく、こういう子もいるということを三田市民が理解し、障害者を地域で育てていくような環境が理想だと感じます。障害者を隠して隔離し、檻に入れてしまう事象が三田でも起こりました。

古くからの地域には神社やお寺が建っており、そこではお祭りなどによる地域のつながりがありますが、ウディータウンやフラワータウンなどでは小学校、中学校以降のつながりが持ちにくく、近所付き合いが希薄になりやすい環境ではないかと思えますし、障害者や高齢

者の地域での居場所が少ないのでは思います。こうした環境で、みんなで住みよい三田にしましょうと言っても、非常に難しいのではないかという気がしております。

(津田会長)

とてもリアリティのあるご意見だと思います。

(岡本委員)

私は施設の理事長を務めておりますが、地域の方と接しながら施設を運営しております。最近には特に自立を目指す方を対象としたグループホームが増えております。うまく考えていけば障害者の方と地域とのふれあいや交流が進む状況になっていくと思います。私は生まれも育ちも三田市ということもあり、市民の障害者の方への対応は今後優しいものとなるであろうと期待しております。我々と障害者の方々とのつながりをもう一歩進め、地域の中に積極的に入り込んでいくということも含めて考えていかなければ、今後の発展はないのではないかと思います。

(津田会長)

困難はあるものの前向きに、ということですね。

(山口委員)

療育・教育分野の市民アンケートで、障害のない子どもと一緒に教育を受けられる環境を望む人が約6割と出ています。先ほど申し上げたように本校も併設型で、三田市も共生教育が大事だということで、障害のある子とない子がともに学ぶ、それが当たり前環境になっています。大きな声を出すような子たちとも交流し、なぜ声を出してしまうのだろうとみんな考えることから始めています。そうすることによって、今こういう気持ちになっているから声を出してしまうとの理解ができ、共にいるということだけでも学びはとて多いわけです。学校教育でそういう学びをつくるのですが、次は学校卒業後の福祉、社会への接続というところが課題であると思います。学校で積み上げてきたものをいかに次へバトンパスしていくのかという部分が、どうしても見えにくく薄いように感じます。福祉へのつながりの仕組みのようなものが、計画の中で見えればと思います。

また、社会については、障害者が出ていきやすい社会でないと出ていけないということもあります。1つ例をあげますと、本校の子どもたちが家族と一緒に外でお昼ご飯を食べたいとなり食堂に入っても、ペースト食の対応をしてくれるような場所がどこにあるのかということです。周りが受け入れてくれる、みんなが分かってくれている、そういう社会になっていることが、出ていきやすさにつながると思います。

(平井委員)

障害のあるお子さんの放課後や休日の過ごし方として、放課後等デイサービスがありますが、子どもたちは専門的な療育や教育の中だけで育っていくわけではなく、やはり、地域で育つということが必要です。障害のあるお子さんが参加されて当然という意識をどの場面でも持つ、それは理想かもしれませんが、そこはしっかりと押さえなければなりません。その上で、具体的にどう対応すればよいかということをおもひなで考えていく必要があります。

専門家は専門的な知識を持っていますし、地域で活動されている方たちは、それについての色々なノウハウを持っておられるので、そこでどのように融合していけばよいかということが大事ではないかと思えます。地域の方たちが何かをしたいといった時に、そこに障害のあるお子さんも入っていて当然だという考え方が必要ではないでしょうか。教育の中で起こっている問題と同じように、障害のある子どもへの対応の仕方が分からないということを見越したうえで、一般のボランティアや地域の人たちにどうしてもらえばよいか、どういう対応が必要か、子どもたちはなぜ困った行動を取ってしまうのか、そういうところもしっかりと押さえることが大切です。一緒に何かをしていく中でこそ、育っていくもの、理解できるものがありますので、そのような考えで進めてしていくべきかと思えます。

1番右側にある第6次障害者福祉基本計画の体系の「2 地域で支えあい、健やかに成長できる基盤の確保」の中に1つは療育、教育体制の充実、1つは地域福祉活動の推進と、2つ書かれており、大変大事なことです。別々に進んでいくようなイメージがあります。実はこれは1つで、障害のあるお子さんたちを地域でしっかりと受け入れる、専門的な知識、子ども一人ひとりに合わせた対応、さらにはそれを一般の人たちにも広げていく、この全てが必要で、みんなで考えていかなければなりません。共生、一人ひとりを大事にする、いろいろな人に合わせるという意味でのインクルージョンの考え方をどこかに盛り込み、みんなで進めていくことが大事だといったような文言が入ればよいと思っております。

(津田会長)

理念にも通じる貴重なご意見だと思います。先ほどからの議論で地域社会という言葉がよく出てきており、これはすごく大事なことだと思います。第6次の体系4の(4)に「誰もが参加しやすい地域社会づくり」とありますが、これは、第5次ではなかったものとして加えられています。アンケート結果から浮かび上がってきた大きな課題とも関連しているため、行政の皆さんも意識されているように思います。ただ、それは大事なポイントである一方、地域社会だけでよいのかという思いもあります。地域社会というと、生活圏の小さな範囲の地域を思い浮かべるのですが、そこに閉塞感のようなものを持っている方も多いのではないのでしょうか。むしろ、まちの真ん中に出ていって、みんなが集まっている所に参加するほうが気楽でよいということもあるのではないかと思うので、もう少し広げて、地域社会も大事だがそれ以外もあるといった観点を持ったほうがよいのではないかと感じました。



第6次障害者福祉基本計画の体系、素案で示されているものをもう少しブラッシュアップしていく、あるいは、さらに全体の構図を見直すなどの議論が今後続いていくと思います。今回伺った意見を一旦取りまとめ、次回につなげていく形となりますが、言い足りないことなどございましたら、後日事務局にお伝え願います。

本日の協議事項については、終わりにしたいと思います。事務局に進行をお返しします。

(事務局)

資料説明(次期計画策定に向けたスケジュール)

(事務局)

次回、第3回の障害福祉審議会は、9月13日(水)に予定させていただきたいと考えております。

以前お知らせしましたように、審議会委員の任期が、6月末で満了となります。これまで様々なご意見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました、7月以降も継続いただける方がほとんどではありますが、次回の審議会からは新しいメンバーでの実施となりますので、よろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして、令和5年度第1回三田市障害福祉審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。